

各学年・学級の取組	第1学年	第2学年	第3学年	G組	S組
主体性を高めるための重点取組	主体的に行動する力を高める。	自主・自立を促す活動を行う。	自ら考え、行動する力を高める。	自分で考え、判断し、行動できる力を付ける。	社会的自立に向け、社会生活を営む上で望ましい態度や習慣を養う。
主体性が高まったと考えられる育てたい生徒の姿	・見通しをもって行動できる。 ・原因を追究できる。	・状況を把握し、よりよくするための提案先を見通した行動ができる。 ・自分の言葉で発信し、声掛けやコミュニケーションをとることができる。 ・自己管理ができる。	・目標に向かって計画を立て、自主的に行動できる。 ・自分の生き方を自分で考え、その実現に向け、自主的に努力できる。	・必要なことを自分で調べ活用できる。 ・自分の役割を果たすことができる。 ・自分の意見を持ち、他人の意見も尊重できる。	・自立に向けて、自分の役割を責任をもって取り組むことができる。 ・自分から協力を求め、課題を達成することができる。 ・相手の気持ちを理解し、寄り添うことができる。
教員の指導と手だて	・発言や記述から、生徒が主体的に考えていることを見取る(できるだけ多くの生徒を見取る)。 ・生徒自身に目標を立てさせる。 ・同じ目標に対して生徒同士が共感し、協力できるように、生徒同士が互いに声掛けをしながら実現に向かうよう指導し、周りのことも考えられるように助言する。	・学級活動や学校生活で、リーダーを中心とした自主・自立の活動を促進する。 ・自分の言葉で発表する場面をつくる。 ・教員から温かい評価をする(アドバイスや評価、気になったことはすぐに伝える)。	・進学先で何を勉強しどのような力を身に付けたいのか、どのような活動をし、どのような力を高めていきたいのかを考えさせる。 ・委員会、実行委員会、部活動ではリーダーとして、各クラス内では係や当番活動で自分の役割を理解し、協力して生徒主体の活動場면을多く設定する。	・職業の学習で、主体的に自分の役割を果たしたり、必要な改善点を交換したりして、責任感や協調性を高められる工夫をする。	・自立する姿勢を養うために、係活動や当番活動において、自分の役割をはっきりさせ、責任をもって取り組めるよう指導する。 ・自分の意見を持ち、その考えを相手に正確に伝えられるように指導するとともに、お互いの意見を受容できるよう、様々な教育活動を通して指導していく。
具体的な教育活動	・生徒が定期考査前に予想問題を作成、解答し、自主的に学習計画・学習に取り組む姿勢を身に付ける。 ・毎学期末に振り返りシートを用い、目標に対する自らの行動の反省を可視化する。 ・行事に向けた取組を行った際に、振り返りを必ず行う。	・学級委員が学年集会でクラスの振り返りを発表する際に、クラスの意見やクラスの雰囲気が変わるように工夫してまとめる。 ・日直からの一言の際に、今学期の目標について発表する。 ・校外学習の見学地を各班のプレゼンテーションを基に決定する。	・上級学校の先生の話や聞く会を通して、上級学校の教育活動等について理解を深め、自らの進路選択の手がかりにする。 ・先輩による後輩への挨拶推進運動で模範となる先輩の姿を見せる。	・グループ分けや、その中での役割分担などを生徒自身が行い、畑作業に取り組む。 ・職業系の生徒が、自らタイミングを考え、継続的に野菜に水やりを行う。	・生徒の普段の生活の様子について、教員(主観)、学習補助員による第三者視点(客観)、S組版QU(生徒の主観)から見取る。
実践を通して見られた生徒の姿	・学級委員が主体的に問題を作成できた。 ・生徒同士で教え合う様子があった。 ・普段から学習への取組に課題がある生徒への意識付けになった。	・前に立って、自分の言葉で話ができる生徒が増えた。 ・他の生徒の発言をよく聴いている生徒が増えた。 ・1分前着席など、自然に声掛けがあり、協力しようという雰囲気が見られた。	・進路、成績、目標などをより具体的な内容で相談することができていた。 ・合唱練習のときに、何を意識したら良いかを個人で考えるとともに、それをパートや全体で共有して練習することができた。	・必要なことを調べ、活用できていた。 ・リーダーは、班員に的確に指示を与えることができた。 ・全員が意見をもって発言することは難しい場面が多かったが、互いに意見を求め、グループで意見をまとめることができた。	・気持ちの乗り方(乗せ方)で取り組み方が大きく変わった(学校行事で用具の準備を手伝う場面などで見られた)。 ・RIKUTAIでの「感謝の手紙」を書く学習(自立活動)では、感謝のメッセージを考え、渡し合うことができた。
主体性を育むのに特に有効であった教育活動	・定期考査問題を予想することが難しいと感じる生徒もいる。学級委員がまず予想問題をつくることで、生徒全体の学習に対する意欲が上がった。	・委員会の発表の際に自分の思いを発表する活動が効果的だった。 ・様々な活動の準備段階の際に、生徒の意見を聴き、言葉にさせることで、自分で見通しをもって行動することにつながった。	・合唱の練習計画を生徒主導で立てる取組を全学年で共通して行い、生徒の主体性を高めることができた。 ・実行委員形式での活動は生徒が役割・責任を持ち、効果的だった。	・縦割りでグループを作って畑作りをしたことは、協調性を高める上で効果的だった。 ・畑で作るものをグループごとに自分たちで決めたことは、意見を持ち、発表し、合意形成を図る力の向上に効果的だった。	・特別活動では、学級の月の目標決め、自立活動では、カードゲーム、SST、修学旅行では、通常級との関わり・受容の学習が効果的だった。
今後の教育活動に生かすこと	・教員からの指示がなくても行動できるようになるとよい。 ・学級委員以外の生徒も予想問題を作るように広げていけるとよい。受け身にならず、自分から活動に参加する態度が育つ。 ・できたことの振り返りや、改善案、次への目標を考えさせることができるとよい。	・生徒同士がお互いに褒め合える雰囲気づくりを促すため、教員が意識して良かった行動や場면을言葉で伝える。 ・生徒が活躍できる機会をつくると共に、行動のためのスキルを高めていくことも必要である。	・卒業式の合唱において、その曲のメッセージや思いを感じ取らせ、どのような思いや意図をもって歌うのかを一人一人に考えさせる。 ・やりっぱなしではなく、教員が評価すること。また、それが引き継がれることで、主体的な行動につながる。	・少人数のグループでの活動を様々な場面で取り入れていく。 ・活動の中で、自分たちで決める機会を増やす。 ・改善しながらも継続的に同様の課題に取り組ませる。	・異学年との交流授業では、話し合い活動や発表の機会を作る。 ・委員会、係活動では役割を意識した活動を行う。 ・部活動では、S組の生徒との関わりだけでなく、多くの他者と関わる経験することができる。

各学年・学級の実践

第1学年
【重点実践】 主体的に行動する力を高める。
[育てたい生徒の姿]
<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって行動している。 ・原因を追究できている。
[教員の指導と手立て]
<ul style="list-style-type: none"> ・受動的にならず、能動的に、主体的に行動できるようにする。 ・疑問(どうしてこうなるんだろう? どうやったらできるんだろう?)をもつ場面をつくる。 ・発言や記述から、生徒が主体的に考えていることを見取る(できるだけ多くの生徒を)。 ・生徒自身に目標を立てさせる。 ・同じ目標に対して生徒同士が共感し、協力できるように、生徒同士が互いに声掛けをしながら実現に向かうよう指導し、周りのことも考えられるように育てる。 ・原因を克服しようとし、目標を達成するための方法を考え直すよう指導する。
[具体的な教育活動]
<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト前に予想問題を作成、解答し、自主的にテスト計画・学習に取り組む姿勢を身に付ける。 ・毎学期末に振り返りシートを用い、目標に対する自らの行動の反省を可視化する。 ・行事に向けた実践を行った際に、必ず振り返りを行う。
[実践を通して見られた生徒の姿]
<ul style="list-style-type: none"> ・学級委員が主体的に問題を作成できた。 ・生徒同士で教え合う様子が見られた。 ・テストに向けてみんなで頑張ろうという雰囲気が見られた。 ・日頃から学習への実践に課題がある生徒への意識付けになった。 ・自分の言葉で表現し、自分の行動を見つめ直すことができている生徒が多く見られるようになった。
[主体性を育てることに特に有効であった教育活動]
<p>・テストの予想問題づくり</p> <p>生徒が作成したこともあり、興味・関心をもって取り組む様子があった。ただ、予想することが難しいと感じる生徒もいる。学級委員がまず予想問題をつくることで、生徒全体が学習に向けて意欲が上がった。</p>
[今後の教育活動に生かすこと]
<ul style="list-style-type: none"> ・教員からの指示がなくても行動できるようにすること。 ・学級委員への事後アンケートを行い、実践の振り返りを行うこと。 ・学級委員以外の生徒も作るように広げていくこと。そのことで、受け身にならず、自分から進んで活動に参加する態度が育つ。 ・できたことの振り返りや、改善案、次への目標を考えさせること。 ・振り返りの活動を何度も続けること。そのことで、行動に移す力を育てていく。 ・反省を分析する力が伸びるように、教員側からも導いていくこと。

第2学年
【重点取組】 自主・自立を促す活動を行う。
[育てたい生徒の姿]
<ul style="list-style-type: none"> ・状況を把握し、よりよくするための提案や先を見通した行動ができる。 ・自分の言葉で発信し、声掛けやコミュニケーションがとれる。 ・自己管理ができる。
[教員の指導と手立て]
<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動や学校生活で、リーダーを中心とした自主・自立の活動を促進する。 ・自分の言葉で発表する場面をつくる。 ・自分たちの行動した結果にどのような成果があるかを考えさせる。 ・実際に行動した結果、良い方向になるという成功体験を積み重ねる。 ・教員からの温かい評価をする（アドバイスや評価、気になったことはすぐに伝える）。 ・学活、道徳、総合において、全生徒の考えを知り、自分の考えを伝えられる取組を実施する。 ・委員会、係、班の役割を働かせる。 ・コミュニケーションをとることが楽しいと思える授業を実践する。 ・誰とでもお互いに声掛け（励ましや注意）ができる仲間関係を育む。 ・良い挨拶ができる意識を高める。
[具体的な教育活動]
<ul style="list-style-type: none"> ・授業や、委員会活動など様々な場面で、自分の考えを一言付け加える活動をする。 ・日直の一言の際に、今学期の目標について発表する。 ・学級委員が学年集会でクラスの振り返りを発表する際に、クラスの意見やクラスの雰囲気が変わるように工夫してまとめる。 ・校外学習の見学地を各班のプレゼンテーションを基に決定する。
[実践を通して見られた生徒の姿]
<ul style="list-style-type: none"> ・前に立って、自分の言葉で話をできる生徒が増えた。 ・合唱コンクールの練習を自分たちで練習計画を立てて、自分たちで考えて行動することができた。 ・小さなグループの小リーダーが育ってきた。 ・合唱コンクールの作文を見ると、行動にはうつせなかったけれど、「こうしたい」や「こうなりたい」といった思いが書かれるようになった。 ・「1年生の合唱に感動した」など、周りを見て良い影響を受け止めることができていた。 ・他の生徒が言っていることをよく聴いている生徒が出てきた。 ・選挙での立候補者が多く、それぞれが問題意識をもち、全校生徒の前で発表できていた。 ・学年集会や合唱コンクールでのリハーサルなど、生徒中心で活動や話を進めていた。 ・1分前着席など、自然に声掛けがあり、協力しようという雰囲気が見られるようになった。 ・悪い行動に対して、素直に「良くない」と口に出せる生徒が出てきた。 ・その場に応じた適切な行動を自然と取れる生徒が増えてきたことで、周りを気にせず不適切な行動をとっている生徒が目立つようになった。

[主体性を育むことに特に有効であった教育活動]

- ・委員会の発表の際に自分の思いを発表する活動
- ・委員長が2年生から選出される場面など、タイミングを捉えた教員の指導(後押し)。このことで、「自分たちがやらなくては」という意識が出た。
- ・練習日程を決めることなど活動のスタートを生徒に決めさせたこと。これにより、生徒主体の取組になった。
- ・様々な活動の初期の準備段階のときに、生徒の意志を聴き、言葉にさせること。これにより、自分で見通しをもって行動することにつながった。
- ・活動の趣旨や意図が生徒に伝えること。生徒に伝わると、動き出しもよくなった。
- ・「班長は責任感がある人」といったように教員からの意識付けを行ったこと。
- ・随筆風の作文に取り組み、短くても自分の言葉を思いに表すこと。

[今後の教育活動に生かすこと]

- ・発表した人の意見を受け入れる行動(拍手など)を促し、小リーダーの話聴く雰囲気をつくること。
- ・生徒同士がお互いに褒め合える雰囲気づくりをしたり、教員が意識して良かった行動や場面を言葉で伝えたりすること。
- ・生徒が活躍できる機会をつくと共に、行動のためのスキルを高めていくこと。
- ・学習計画やミライパスポートを活用し、見通しを自分たちでももてるようにすること。
- ・ねらいや目標を自分で設定できるよう、学習に苦手意識のある生徒へも、「頑張りたい」からさらにその生徒の思いを引き出すこと。
- ・少し先のことや、少し周りのことが見えてくるようにすること。これにより、行動も変わってくる。
- ・活動が生徒に合っておらず、活動のねらいが達成できていないときは、別の方法を考えること。

第3学年
【重点取組】 自ら考え、行動する力を高める。
〔育てたい生徒の姿〕
<ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かって計画を立て、自主的に行動できる。 ・主体性をもち、自己の進路に向き合う。 ・自分の生き方を自分で考え、その実現に向け、自主的に努力できる。 ・自ら調べ、選択肢を広げられる。 ・自分の適性を見付け、それを伸ばす努力を惜しまない。 ・置かれた場所で咲くことができる。 ・リーダーもサポートする役割の人も自信をもって活動に取り組む。 ・他者のことを尊重しながら、自分の意見を発言できる。 ・みんなが積極的に活動できるように先頭を進む。 ・礼儀を大切に、思いやりをもって自分の行動に責任をもつ。 ・挨拶をはじめとしたコミュニケーションを積極的に図ることができる。
〔教員の指導と手立て〕
<ul style="list-style-type: none"> ・自身の進路を見つめていく中で、責任と主体性をもって生きていく基礎を固めさせる。 ・進路や学習計画を目標から逆算して考えられるよう指導する。 ・道徳の授業を通して、様々な職業を調べさせ、自分の将来について考える機会を与える。 ・上級学校への進学を考えている生徒が大半なため、その進学先で何を勉強しどのような力を身に付けたいのか、どんな活動をし、どんな力を高めていきたいのかを考えさせる。 ・委員会、実行委員会、部活動では上級生のリーダーとして、各クラス内では係や当番活動で自分の役割を理解し、協力して生徒主体の活動場面を多く設定する。
〔具体的な教育活動〕
<ul style="list-style-type: none"> ・「上級学校の先生の話の聞く会」を通して、上級学校の教育活動等について理解を深め、自らの進路選択の手がかりにさせる。 ・先輩による後輩への挨拶推進運動で模範となる先輩の姿を見せる。
〔実践を通して見られた生徒の姿〕
<ul style="list-style-type: none"> ・前期の委員会から後期になるタイミングで、「しっかり2年生に引き継ぐ」という様子が見られた。 ・委員会の委員長として、自ら委員会で行うべきことを決定し、レジュメを準備し司会進行まで行っていた。 ・進路、成績、目標などをより具体的な内容で相談することができていた。 ・合唱練習のときに、何を意識したら良いかを個人で考えるとともに、それをパートや全体で共有して歌うことができた。 ・探求活動における、「課題設定」「仮説設定」「考察」など、自分なりの考えをもち、文章でまとめることが出来るようになった。 ・単元を貫く問に対して、学習前後で自分の考えを文章でまとめ、学習前後の自身の成長を分析できるようになった。 ・実行委員としてリーダーの自覚や責任感をもち活動することができた。 ・自分たちで班行動計画を立て、自分の決めた計画で伸び伸び行動でき、生き生きとしていた。必要以上に時

間に束縛されずゆとりのある計画を信じて活動していた。

・フォトコンテストを実施し、修学旅行を振り返り、提示したテーマに沿った写真選択、フォトフレーム作成、キャプションを分担しながら積極的な姿勢で取り組む姿が見られた。

・合唱コンクールでは、責任をもち、人に言われる前に自分から行動していた。周りに気を配り、楽しみながら活動していた。歌詞を理解し、より深めていこうという姿勢が見られた。

・進路学習では、言葉遣いに気を付けながら、自分の考えや気持ちを伝えようとした。お互い見合うことで、学び合いができた。

[主体性を育むことに特に有効であった教育活動]

・国語のノートのメモ欄(何を書いてもOK)を活用した。

・修学旅行班行動計画や係活動を重視した。

・英語の授業でのレポート課題について、自分の言葉で他人に説明できるようにしたこと。

・合唱の練習計画を立てること。全学年で共通して行うことができ、とても良かった。

・実行委員形式での活動。このことで生徒が役割・責任をもつことができた。

[今後の教育活動に生かすこと]

・生徒の興味や関心を高め、自然な形で主体的に取り組む姿勢を育む課題や目標を設定する。

・AIの活用方法を厳格にする。

・卒業式の合唱において、その曲のメッセージや思いを感じ取らせ、どのような思いや意図をもって歌うのかを一人一人に考えさせる。

・やらせっぱなしではなく、教員が評価すること。また、それが引き継がれることで、主体的な行動につながる。

・逆算の考え方で進路を切り開く。

・球技大会を企画し運営する。

・授業における教え合いや、生徒が解説をすること。

G組
【重点取組】 自分で考え、判断し、行動できる力を付ける。
[育てたい生徒の姿]
<ul style="list-style-type: none"> ・必要なことを自分で調べ活用できる。 ・自分の役割を果たすことができる。 ・自分の意見を持ち、他人の意見も尊重できる。 ・言われたことを正確に行うことができる。 ・分からないことは、自ら質問することができる。 ・意欲的に取り組むことができる。 ・素直に聞き、取り組むことができる(文句を言わない)。 ・最後まで人の話を聞くことができる。
[教員の指導と手立て]
<ul style="list-style-type: none"> ・職業の時間で、主体的に自分の役割を果たしたり、必要な改善点を交換したりして、責任感や協調性を高められる工夫をする。
[具体的な教育活動]
<ul style="list-style-type: none"> ・グループ分けや、その中での役割分担などを生徒自身が行い、畑作業に取り組む。 ・職業系の生徒が、自らタイミングを考え、継続的に野菜に水やりを行う。
[実践を通して見られた生徒の姿]
<ul style="list-style-type: none"> ・必要なことを自分で調べ活用できていた。 ・自分たちで分担を決めて、水やりを行おうとしていた。 ・言われたことを正直に行っていた。 ・リーダーは、班員に的確に指示を与えていた。 ・全員が意見をもって発言することは難しい場面が多かったが、互いに意見を求めあい、グループで意見をまとめることができていた。
[主体性を育むことに特に有効であった教育活動]
<ul style="list-style-type: none"> ・縦割りグループ(5名)を作って畑作りをしたこと。 ・畑で作るものをグループごとに自分たちで決めたこと。 ・同じことを毎年繰り返し行うこと(畑のグループ栽培)。
[今後の教育活動に生かすこと]
<ul style="list-style-type: none"> ・少人数のグループでの活動を様々な場面で取り入れていく。 ・活動の中で、自分たちで決める機会を増やす。 ・改善しながらも継続的に同様の課題に取り組ませる。

S 組
【重点取組】 生徒一人一人の発達の段階や特性に配慮した学習指導を行い、社会的自立に向け、知識や技能、社会生活を営む上で望ましい態度や習慣を養う。
[育てたい生徒の姿]
<ul style="list-style-type: none"> ・自立に向けて、自分の役割を責任もって取り組む。 ・一人ではできないので、自分から協力を求め、課題を達成することができる。 ・相手の気持ちを理解し、寄り添うことができる。
[教員の指導と手立て]
<ul style="list-style-type: none"> ・自立する姿勢を養うために、係活動や当番活動において、自分の役割をはっきりさせ、責任をもって取り組めるよう指導する。 ・自分の意見を持ち、その考えを相手に正確に伝えられるように指導するとともに、お互いの意見を受容できるよう、様々な教育活動を通して指導していく。
[具体的な教育活動]
<ul style="list-style-type: none"> ・普段の生活の様子(教員の主観)、学習補助員による第三者視点(客観)、S組版 QU(生徒の主観)、から生徒の見取りを行う。
[実践を通して見られた生徒の姿]
<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事で用具の準備を手伝ったりする場面で、気持ちののり方(のせ方)で取り組み方が大きく変わった。 ・実行委員になった生徒は、責任感が生まれ、主体的な発言・声掛けができていた。 ・普段の生活では係活動や学級で動く場面が少ないので、『行事』という場が大切である。 ・RIKUTAI での感謝の手紙(自立活動)では、感謝のメッセージをお互い考え渡し合えた。
[主体性を育むことに特に有効であった教育活動]
<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動…学級の月の目標決め ・自立活動…カードゲーム、SST ・(修学旅行…通常の学級との関わり・受容)
[今後の教育活動に生かすこと]
<ul style="list-style-type: none"> ・異学年との交流授業では、話し合い活動や発表の機会をつくる。 ・委員会、係活動への取組や、部活動(S組を超えて)の取組を重視する。